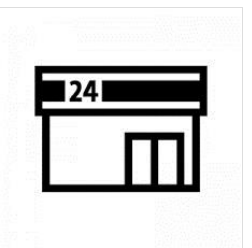




芝小だより

第六月号

発行所 港区立芝小学校
〒105-0014
港区芝 2-21-3
[TEL:03-3456-3072](tel:03-3456-3072)
[FAX:03-3456-3071](tel:03-3456-3071)



課題解決、特に課題発見の大切さ

—学習のあり方を探りながら—

校長 齋藤幸之介

先日実施いたしました百四十周年記念運動会には、御来賓並びに保護者及び御家族の方々に多数お越しいただき、子供たちにお励ましを頂戴しましたことに、心よりの感謝申し上げます。精一杯取り組む姿は、手前味噌にはなりません。子供たちが今まで培ってきた力の素晴らしさを体現し、今後の可能性の高さを示していた、と捉えております。祝う会の方々の御尽力によるアトラクションもございました。この場をお借りして感謝を申し上げます。

会の運営等、来年度に向けての反省も校内で行っているところではありますが、怠惰のない御意見を頂戴できれば幸いです。ご意見を伺い申し上げます。

仙石原のコンピニエンスストアの看板はなぜ茶色？

さて、五月二十九日(月)の全校朝会で、私は、箱根・仙石原付近で見付けたコンピニエンスストアの看板の話をしました。例えば都内では遠くからでも発見できるような色彩ですが、仙石原ではいくつかの看板がこげ茶色です。六年生の中の一人は、普段見かけない色使いも実は箱根の自然との調和を考えたものであろう、と予想していました。まさにその通りで、これは、箱根町の景観条例および景観計画に定められているからです。

私は、五年生の夏季学園、六年生の移動教室で訪れる箱根町の特色の紹介と共に、学習する上での「？」と「予想を立てること」の大切さを伝えようと試みました。子供たちはどう感じているでしょうか。

生きる力を身に付けるための課題解決活動

先日、私は教材室で過去の資料等を探しておりました。そこで、「生きる力」の人間教育を「梶田叡一著・金子書房」を見付けました。本校の先輩教員も以前から教育課題に真摯に取り組んできたことに改めて気付かされます。驚くことに、今から二十年以上前に発刊されたこの著書には、主体的・能動的な学びの力、豊かな人間性といった、今にも通じる学びのあり様が述べられております。また、課題を解決する困難なども述べられており、理屈では分かっている、子供たちが生きる力を身に付ける教育は難しい、と改めて思っています。

子供たちが生きる力を身に付けるためには課題解決活動が必要であると言われます。これは、子供たちが自ら課題を見出して予想を立て、見通しをもって主体的に解決活動を行い、分かったことを自分なりにまとめ、さらにはこれを他者に発信したり次の学習や生活に生かしたりする学習のことです。このプロセスの中で、特に大切な点はどこなのでしょいか。

未来のための「課題発見」

瀧本哲史先生(京都大学客員准教授)は「ミライの授業」(講談社)の中で、自ら課題を見出す「ハ、フ、シ」の課題発

見の大切さを説いています。未来の職業体系が変わることが当たり前のように言われており、ロボットや人工知能が現在の仕事のかなりを行うであろうとされます。つまり、解決のかんりの部分は人間が行うものではなくなるかもしれません。ここで瀧本先生は、今までの未来をつくってきたのは人間であることに着目し、人間がなす「課題を発見すること」を大切にすべき、と主張しています。瀧本先生は多くの偉人が課題発見をしたからこそ世の中に大きな変化が訪れたことを具体的に説明しています。

課題発見は本当に難しいです。私共は、子供たちの関心のもち方を丁寧に予測したり、そのための教材を深く探ったりします。時には、学習の最初に体験を組み入れます。それでもうまくいかずに悩むこともありますが、私共は、子供たちが自ら課題を発見したときに驚いたり、「多分こうだと思っよ」と予想したり、それが正しいかどうかを自ら確かめようとしたりする姿を今追い求めています。

およそ一か月半後にやってくる夏休みに、子供たちは自由研究に取り組むこととなります。このときに大切なのはやはり課題発見であろうと思います。低学年の子供たちは、やってみたいことを見付けてそれに取り組むことになってもいいかもしれません。自由研究はそれこそ子供たちに委ねられた自由な学びの場とも言えます。その際、平素の学びが生かされるよう、私共も努力してまいります。一週間後に行われる学校公開にぜひおいいただき、子供たちの学習の様子を御参観くださり、御意見を頂戴できればと思っています。ご意見を伺い申し上げます。